第3号（週刊）2026年11月
札幌大志の会発行

週刊 菊地タイムズ



札幌の冬が変わる!?

「パートナシップ排雪」に代わり今冬から試験導入の「公共排雪」

除排雪予算の急増、人口減少による人手不足など札幌の冬は危機的状況を迎えている。そこで、今冬最も注目されているのが、「パートナーシップ排雪制度」（PS制度）の代わりに試験的に導入される「公共排雪」の市内全域への拡大だ。

そもそもPS制度はなぜ見直されようとしているのか。幹線道路などは市が排雪する一方、生活道路は希望する町内会が費用の一部を負担する形で一九九二年に導入された。

長年続いてきた制度だが、町内会の負担は十年前の一キロあたり約三十五万円から、現在は五十万円を超えて一・五倍も増加。町内会に加入している世帯が減少していることで町内会費を収める人の負担が強まっていた。また、町内会ごとに実施するかどうか判断が分かれることで、地域ごとに排雪状況や公費負担に差が出る不公平感も指摘されていた。

公費のみで生活道路を排雪する「公共排雪」は一見公平な制度にも見える。だが、PS制度は行政に任せきりにせず、市民も応分の負担をする「市民参加」という意義もあった。果たして望ましい札幌の除排雪の姿とは何か。次号では、公共排雪のメリットや課題について報じていく。

問われる「市民の負担と役割」



札幌報道部
菊地直己